

# 熊本市北区まちづくりマップ作成のための ワークショップの運営と分析

田中 尚人<sup>1</sup>・安永龍一郎<sup>2</sup>

<sup>1</sup>熊本大学 政策創造研究教育センター 准教授

<sup>2</sup>熊本大学大学院自然科学研究科 社会環境工学専攻 博士前期課程

平成24年4月より政令指定市に移行した熊本市は、中央・東・西・南・北の5区の区割りとなった。筆者らは、平成24年度より南区のまち歩きマップ「まち歩き手帖」の策定を支援してきた。平成26年度は、これに加え熊本市北区のまちづくりマップ策定支援を請け負った。このため、筆者らは「北区民と北区役所職員が協働して、幸せに暮らす北区の人々の姿、場所、風景などを「一枚の絵」にする」ことを目標に、まちづくりマップ作成を北区役所職員が中心となって指導できるように計4回の職員ワークショップを行った。この結果「きたくぶ」と呼ばれる北区役所の有志が結成され、4地域で行われた「北区幸せ絵巻ワークショップ」を実践することができた。本研究の目的は、筆者らのまちづくりに関するアクションリサーチの実践を、地域住民と行政との協働のもとで展開される地域の風土を活かしたまちづくりの基礎資料とすることである。そのため、熊本市北区のまちづくり事業支援における、フレームワークの設計意図、その実施プロセス、振り返りにおける地域住民と行政職員の意識形成について分析した。

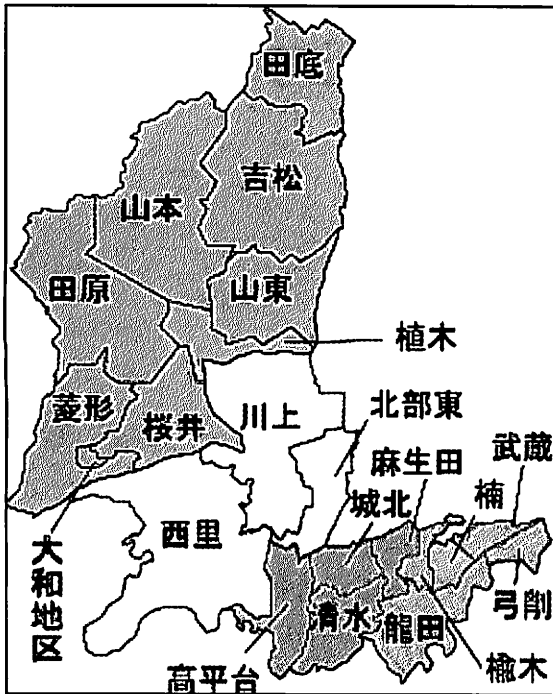
## 1. 研究の背景と目的

### (1) 熊本市北区の概要

平成24年4月1日より政令指定市に移行した熊本市は、中央・東・西・南・北の5区の区割りとなった。熊本市の人口は、約73万4千人（平成22年国勢調査）で、全国の都市で17番目、面積は約390km<sup>2</sup>で、県内人口の約40%が集中するプライメイトシティである。

北区は5区の中で面積が最も大きく115.35km<sup>2</sup>、人口は147,589人（平成22年国勢調査）市の北部に位置する区である。区域内を国道3号が走り、豊かな農産物と自然に恵まれ、西南戦争等の歴史や様々な伝統文化が息づいている。また、温泉も豊富で、「食」「自然」「歴史」「文化」「温泉地」に恵まれた暮らしやすいまちである。

北区は、図-1に示すように20校区・1地区<sup>\*1</sup>で構成されており、まちづくり交流室の所管区域ごとに清水地域（4校区）、龍田地域（5校区）、北部地域（3校区）、植木地域（8校区1地区）の4地域に分けることができる。これらの地域は、いずれも市町村合併により熊本市となった経緯がある。



※1 大和地区は菱形校区の一部であるが、校区と同様のコミュニティを形成していることから1地区と記載している。

旧清水村…昭和14年合併<sup>\*2</sup>

旧龍田村…昭和32年合併

旧北部町…平成3年合併

旧植木町…平成22年合併

※2 龍田まちづくり交流室の所管である檜木校区の一部は旧清水村の区域であった。

図-1 北区の小学校区

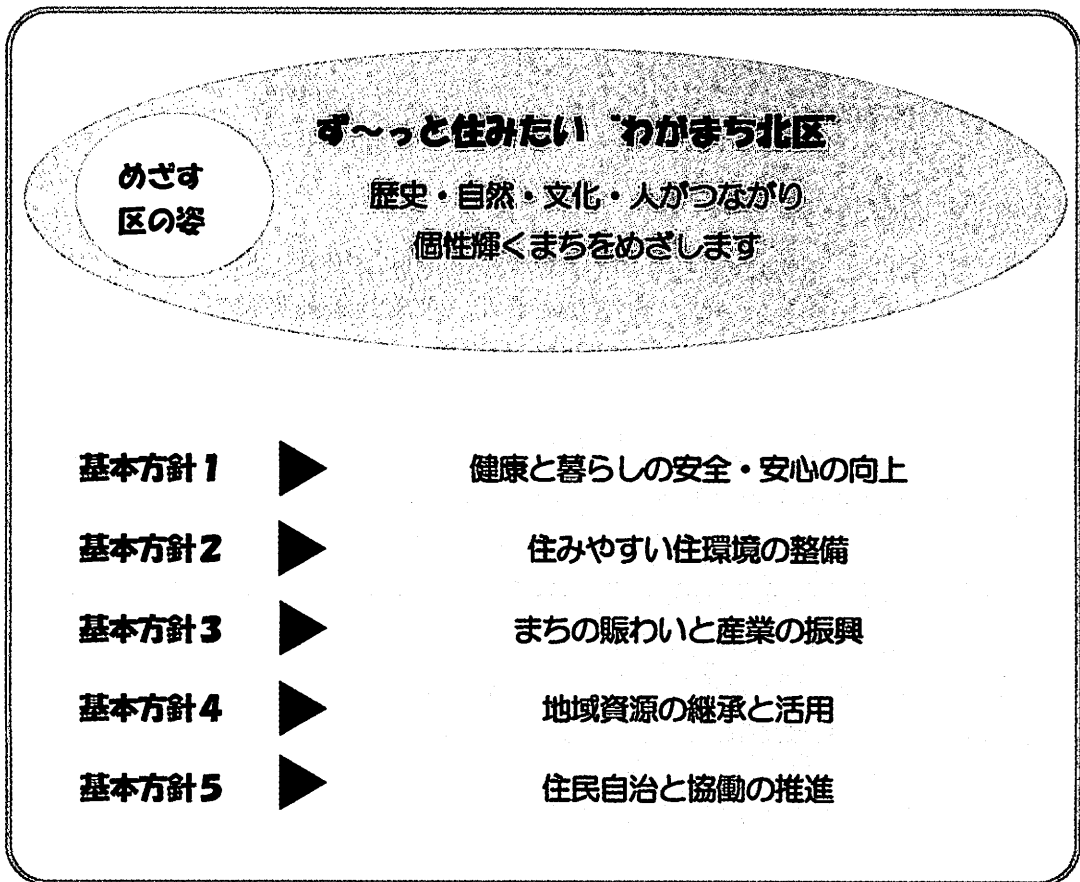


図-2 北区のまちづくり：基本方針（北区まちづくりビジョン概要版より）

## (2) 熊本市北区のまちづくり支援の概要

筆者らは、熊本市南区同様に豊かな歴史と自然を有する北区のまちづくりに対して、以下のような、まちづくり支援事業を計画した。

- ① 年間を通じた、まちづくり事業に対するコンサルティング
- ② 懇話会やアンケートを通じた地域住民の意見集約
- ③ ワークショップ（以下、WSと略）の企画・運営
- ④ まち歩きに関するコンサルティング

## (3) まちづくり事業に対する基本方針

筆者らは、「まちづくり」とは、従来のトップダウン型の都市計画のイメージに対して、ボトムアップ型の、地域住民、行政（市町村や県、国等）、アソシエーションの各ステークホルダーが積極的に参加し協働する、法制度のみならず様々な地域資源を活用しながら進める、終わりのない地域環境改善活動と定義している。

熊本市北区のまちづくり事業支援の基本方針は、以下の通りである。

- 1) まちづくりは、地域住民と北区役所との協働のもとに実践する。

基本的な事項であるが、地域住民、行政、アソシエーション（筆者らを含む）の3つのステークホルダーの役割を確認し、適切な協働体制をつくる意識を共有した。特に、総務企画課の方々とは、常に立場や役割を確認する体制をつくった。

- 2) 地域住民から頂いたまちづくりに関する意見は、基本的に全て受け止める。

懇談会やアンケート、ワークショップなど、様々な場所で、地域住民の方々のまちづくりに対するご意見を頂くのだが、これらを「全て無駄にしない」、一度「全て受け止める」ことを基本方針に据えた。

- 3) 北区まちづくりには、北区役所の全員が取り組む。

私たちは、「まちづくり」をまちづくりの実践を担う担当部署のみが取り組むのではなく、「区役所の職員であれば誰もが、何らかのかたちでまちづくりに関わっているのだ」という意識を持っていただくことをお願いした。地域住民からみれば、担当であろうとなかろうと、北区役所の職員は北区役所の職員である。職員全員が、北区の将来像や「まちづくりビジョン」に対して理解を示し、北区のまちづくりに関するワークショップへの参加や、協力を依頼した。

本研究の目的は、筆者らの熊本市北区のまちづくりに関するアクションリサーチの実践を、地域住民と行政（基礎自治体）との協働のもとで展開される地域の風土を活かしたまちづくりの基礎資料とすることである。そのため、筆者らが請け負ったまちづくり事業支援における、筆者らのフレームワークの設計意図、その実施プロセス、振り返りにおける地域住民と行政職員の方々の意識形成を分析した。

## (4) 平成26年度の事業概要

- ① キックオフWS 【日程】 6 / 3 (火) 18h00~19h30の90分

ワールドカフェ方式WS「北区の宝物を共有するアイデア」

・北区役所職員同士の意識共有「まちづくりは区役所をあげて」

- ② 「北区幸せ絵巻づくり」のためのWS手法の開発WS（3回連続）

- ・地域WSのファシリテーターとなる、市職員の方々、要連続3回受講
- ・4地区（植木・北部・清水・龍田）で行うWSのプログラム等を設計するWS。
- ・90分程度×3日 【日程】6月中旬～7月上旬

### ③中高生WS

- ・上記の「北区幸せ絵巻づくりWS」のパイロットバージョン
- ・120分+ $\alpha$  【日程】8月中

### ④4地区のWS（植木・北部・清水・龍田）

- ・120分 【日程】9月中

### ⑤WS成果のまとめ

- ・中高生WS、4地区WSの成果をまとめる 【日程】10月上旬

## 2. ワークショップの運営と学び

本章では、「北区民と北区役所職員が協働して、幸せに暮らす北区の人々の姿、場所、風景などを「一枚の絵」にする」ことを目標に、まち歩きマップ作成を北区役所職員が中心となって指導できるように計4回行った職員WSの運営と学びを記述した。

### (1) ワークショップの概要

#### 1) キックオフWS

開催日時：平成26年6月3日(火) 18:00～19:30

開催場所：植木文化センター 2階多目的ホール

参加者：北区役所職員の方々 60名程度

熊本大学 田中 尚人、大学院生

ネストグラフィックス 河北 信彦

#### ①趣旨説明（田中）

#### ②自己紹介カード記入

③WS1「ジャンケン列車で探す！北区のよかところ、よかもん」 3分×4

④WS2 ワールドカフェ「北区の魅力を共有し、発信する仕掛け」 10分×3

#### ⑤振り返り

#### 2) きたくぶWS第1回

開催日時：6月12日（木）18:00～20:00

開催場所：植木文化センター 2階多目的ホール

- ・自己紹介 みんなで「部活証」を製作する。

- ・キックオフWSの振り返り

- ・「北区のMAP」、「北区のMAPづくり」、「+ $\alpha$ 」に対するアイデア出し

#### 3) きたくぶWS第2回

開催日時：6月25日（水）18:00～20:00

開催場所：北区役所 2階会議室

- ・3or4チームに分かれて、実際にA0程度のMAPを製作しコンテスト

- ・その為に、各自A3の簡易的な北区のMAP「プロトタイプ」の作成

#### 4) きたくぶWS第3回

開催日時：6月27日(金) 17:30~19:30

開催場所：北区役所 2階会議室

- ・車座自己紹介「お勧めの場所(北区以外)」、「北区のMAPのキャッチフレーズ」
- ・手帖班A B、るるぶ班A Bの4チームで、K J法のWSでアイデアをまとめた

### (2) 「きたくぶ」ワークショップにおける学び

#### 1) 第1回WSの学び

- ・有志14名(欠席2名)3回連続で参加するWSの第1回を開催した。
- ・「きたくぶ」の部員として、北区のシンボルカラーである「緑」のものを身に付けて参加し、自己紹介の時に説明する「something green day!」を行い、小さかった頃なりたかった職業なども披露して、仲間として打ち解けた。
- ・WSで決めようとしている以下の①~③の3つの事項について、ブレインストーミングを行い、アイデア出しを行った。

①北区のMAPのカタチ、仕組み

②北区のMAPづくりのカタチ、仕組み(4区それぞれで行うWSを含む)

③+aの取り組みのカタチ、仕組み

例) CM、動画づくり、ドラマ誘致、facebook、歌、踊りなど

- ・その後、①、②、③の順番に並べ、4班でそれぞれのお勧めを決めた。

「き班」自分だけのお宝やお勧めを描き込んだり、手作り感のあるMAPにしたい。

「た班」多くの人に見てもらえるようなMAP。光る地図、音や香りのするMAP

「く班」描き込んだりシールを貼ったりして楽しくなるMAP、こすると香りが出る

「ぶ班」季節感や年代別の趣向に合わせて、思わず手にしたくなるMAP。クイズも

#### 2) 第2回WSの学び

- ・前回出席で今回欠席1名、新しい部員2名

- ・引き続き、以下のミッションについて、議論した。

①北区らしいMAPのカタチ、仕組み、工夫について

②北区MAPづくりの仕組み、やり方(4区それぞれで行うWSを含む)

③+aの取り組み 例) CM、動画づくり、ドラマ誘致、facebook、歌、踊り

- ・宿題発表(18~19時):各自試作してきたマップのプロトタイプを、「誰に似ている(と言われたことがあるか)」などの自己紹介とともに、車座で発表会。じっくり時間をかけて、皆のアイデアを共有。

- ・チームビルディングとともに、課題の指摘などもあった。

- ・大別すると、コンテンツ(②のWSに繋がる)、マップの工夫(①の内容)

- ・実際につくってみて、たくさん情報があっても、全ては載せられない、マップの工夫で、魅力化する必要がある、手描きスペースや、シールなどが重要、などの意見が聞けた。

- ・「既存のデータを使う」「ターゲットによってゴールが違う」等重要な意見も出た。

- ・あなたは、北区るるぶ派? 北区手帖派? WS(19~20時)

それぞれA、B 2チーム、4チームに分かれて、魅力、課題などをプレスト&K J法し、プレゼン合戦を行った。

- ・るるぶ派 → WSのコンテンツ、やり方、中長期運営方針、に活かせる
- ・手帖派 → マップのデザイン、きたくぶの運営、に活かせる
- ・「皆、MAPづくりの宿題を話題にしていた」「マップにしてみても、始めて分かったことがいくつもあった」「年度またぎの計画がでてきた」「いつまでやる、何回やる？」などの振り返りが生まれ、ファシリテーターとしての習熟度が上がった。

### 3) 第3回WSの学び

- ・欠席者は2名、河北先生が素敵なキーホルダーを製作してプレゼント。
- ・引き続き、以下のミッションについて議論し、その方向性に一定の成果を得た。
- ①北区らしいMAPのカタチ、仕組み、工夫について
- ②北区MAPづくりの仕組み、やり方（4区それぞれで行うWSを含む）
- ③+αの取り組み 例) CM、動画づくり、ドラマ誘致、facebook、歌、踊り
- ・恒例となった自己紹介を車座形式にて行う。今日のお題は、「お勧めの場所（北区以外）」「北区のMAPのキャッチフレーズ」みなさん、すっかり「きたくぶ」のメンバーになってきた。
- ・17名もいると、「へえ～、そんな遠くまで」「私も行ったことある」など、MAPづくりにもヒントになるような気づきがたくさんあった。
- ・手帖班AB、るるぶ班ABの4チームに分かれてWS（18～19時）
- ・手帖A「MAPを広報する手段」  
メディアなども使って広報、大切なのは地元の人々と一緒に広めること
- ・手帖B「MAPを手にとってもらう手段（SP）」  
MAPの魅力化も大切だけど、人が載っている、話題になるなど「人」が大切  
河北)「お金がない」という制約を、逆に限定版としてプレミアム化するなどの工夫も  
田中)人を中心に、繋げていく、繋がっていく、更新していく、使える工夫が大切
- ・るるぶA「幅広い情報を集める手段」  
WS以外でも幅広い情報を募るとともに、WSの参加者の「満足感」を大切に
- ・るるぶB「ディープな情報を集める手段」  
MAPへの情報提供や、情報を集めに行くことが楽しくなるような工夫が必要  
河北)誰が選んだコンテンツなのか、も大切な視点。  
田中)まず役所内で部署を超えてWSをしたり、コンテンツのコンテストもいい
- ・今後の予定＜毎回の振り返りから、多くのことが得られたこと
- ・①、②を連動させて、手帖のように更新できるMAPに、幅広いコンテンツをWSなどで獲得して、るるぶのような情報量を毎年蓄積していき、適切なかたちで取り出せるようなシステム、仕組みを考える。
- ・「きたくぶ」を中心とした北区MAPづくりプロジェクトチーム（PT）結成
- ・PTを中心に、4地区でのWSを企画したり、他の場所でのコンテンツ収集のアイデアも募っていく。
- ・「他の自治体で作ったMAPを使って実際に街歩き」＞美里のフットパスを歩くなど
- ・「区役所内で「きたくぶ」以外の人でのワークショップ」



図-3 きたくぶ集合写真 (2014. 6. 27)

### 3. 北区幸せ絵巻づくりWSの分析

#### (1) 北区幸せ絵巻ワークショップの日程

- 第1回 9月26日(金) 19:00～ @植木文化センター二階多目的ホール  
第2回 9月27日(土) 14:00～ @北部総合出張所二階大会議室  
第3回 10月1日(水) 19:00～ @清水総合出張所二階大会議室  
第4回 10月2日(木) 19:00～ @龍田出張所二階大会議室  
総合ファシリテーター：宮崎、緒方（北区役所）

#### (2) ワークショップの進め方

##### STEP-0：開始前

- ・ テーブルファシリテーターの方は席について待機
- ・ 席に来られた方から順に、紙コップにソフトドリンクを注ぎ、軽く今日のWSの内容を説明しながら、和やかなムードを作る。
- ・ 参加者の方がしっかりとテーブルにつくところまで案内する。

##### STEP-1：あいさつ・趣旨説明（5 min）

- ・ WSの流れ、参加者の方々に行ってもらうこと、どんなデータが欲しいのかを説明。
- ・ 音楽を流す場合は、事前説明を行う。
- ・ 各テーブルに自己紹介カード、プロッキーやポストイットなど必要物を確認。

##### STEP-2：自己紹介（15min）

- ・ A4の紙を提示し、4つに折ることなど、この自己紹介の趣旨を説明。

- ・書いてもらったらこの紙をつかって、時計回り（ファシ判断）に一人ずつ自己紹介してもらう。
- ・タイムマネジメントを注意、長くなりそうだったら切ってもらう。
- ・率先して拍手を行うこと。
- ・時間が余った場合は別の質問を行う。（特技や職業など）和気あいあいと、会話を途切れさせることがないように。

#### STEP-3-1：マップに掲載するデータについて（20min）ブレスト 青色ポストイット

- ・各テーマのテーブルごとに意見交換を始める。参加者の方に、プロッキーでポストイットに意見を書いて広用紙に貼ってもらうように説明。
- ・口だけ動いて手が動かない人がいるので、まずはファシリテーターが動く  
ex：ポストイットに自分の意見を書いて貼るなど。しかし無理強いはいしない。  
それでも手が動かないようだったらファシリテーターの人が意見を書いて貼る。
- ・途中で空気が滞ったりした場合などはお菓子などを勧める。

#### STEP-3-2：マップに掲載するデータについて（20min）KJ法←まとめ

- ・アイデア出し型からディスカッション型へと移行。前STEPで抽出された意見を整理。
- ・まずポストイットに書かれた意見がある程度のまとまりに分けていく。
- ・まとまったグループはマジックで囲む。囲んだグループにはグループの種類名（属性）を書く。
- ・グループの中でもっとも大事だ！これを推したい！と同意できるものを決定する。
- ・広用紙の一番上に【班名】と【班員の名前】【キャッチフレーズ】を書き入れる。  
キャッチフレーズは大きく目立つように。

#### STEP-4：発表（20min）

- ・まとめた広用紙を元に、発表する。  
各班約5分。キャッチフレーズと自分たちの班がどのようなことを考えたか、そしてもっとも推したい意見はどれかなどを発表する。
- ・発表は住民の方にしてもらうようにする。

#### STEP-5：ブレイク（5min）

- ・広用紙を交換する。回収した広用紙は会場の壁に貼り、成果が見えるようにする。
- ・お茶などを入れたりなどしてすこし休憩。
- ・音楽の音量を少し上げて、カフェな和やかな感じへ。

※広用紙2は半分に折って、右側にSTEP-6、左側にSTEP-7を記入するようにする。

#### STEP-6：マップの使い方について（15min）赤色ポストイット

- ・作成するマップをどのようにして利用していきたいか、アイデアを話し合う。
- ・これについてもポストイットに意見を記入してもらい、貼り付ける。

#### STEP-7：マップのかたちについて（15min）黄色ポストイット

- ・北区資源マップのかたちはどのような形にしていってよかったかなどを話し合う。  
同様にポストイットに記入。

#### STEP-8：振り返りシートの記入（10min）

- ・参加者の方にA4の振り返りシートに本日の感想などを記入してもらう。  
※振り返りをしてもらうことによって参加者への学習の定着が期待できる。



集めたデータは回収してデータの打ち込みを行い、反省点などを次のWSへと活かしていく。

#### STEP-9：おわりに、講評（5 min）

- ・ 今日得られたデータなどを今後どのように活かしていくのかを住民の方に説明、今日の講評を行って終了。

### (3) ワークショップの成果

4地区におけるWSでは、前半に「まち歩きマップに載せるデータ」を、そして後半にそのマップを「どのように使いたいか」及び「形をどのようにするか」のワークシートが各1枚、さらにWSの最後に書いて頂く「振り返りシート」が人数分、テーブルごとにデータとして得られた。

ワークシートについては、各地区での参加人数に違いがあり得られた数が違う。植木で3テーブル6枚、北部で2テーブル4枚、清水で5テーブル10枚、龍田で5テーブル10枚の計30枚、また振り返りシートは合計で83枚得られた。

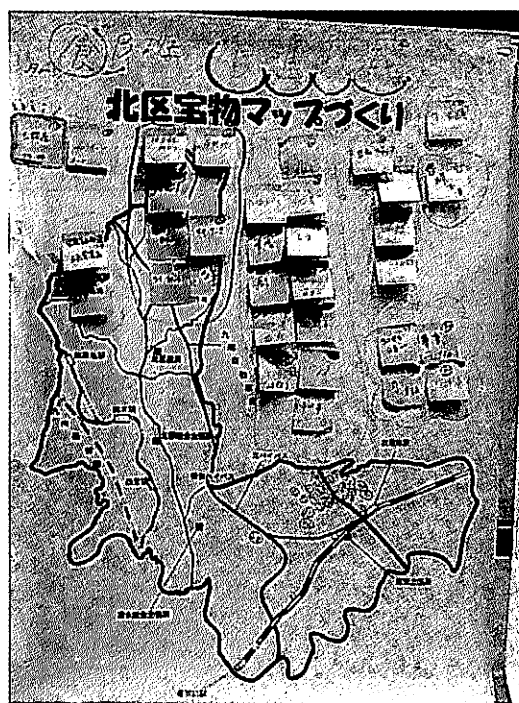


図-4 マップに載せるデータの例

### (4) ワークショップ成果の分析

#### 1) 4地区の比較分析

##### ①参加者数：

参加者が最も多かったのは「清水地域」28人、最も少なかったのは「北部地域」11人であった。 植木：17人、北部：11人、清水：28人、龍田：27人

##### ②意見総数：

意見合計が、最も多かったのは「龍田地域」239個、最も少なかったのは「北部地域」119個であった。 植木：196個、北部：119個、清水：229個、龍田：239個

③一人当たり意見数：

全意見数を参加者数で割った「一人当たり意見数」が、最も多かったのは「北部地域」(11.53個/人)、最も少なかったのは「清水地域」(8.18個/人)であった。必ずしも、参加者の多さと、一人当たりの意見数には相関はない。

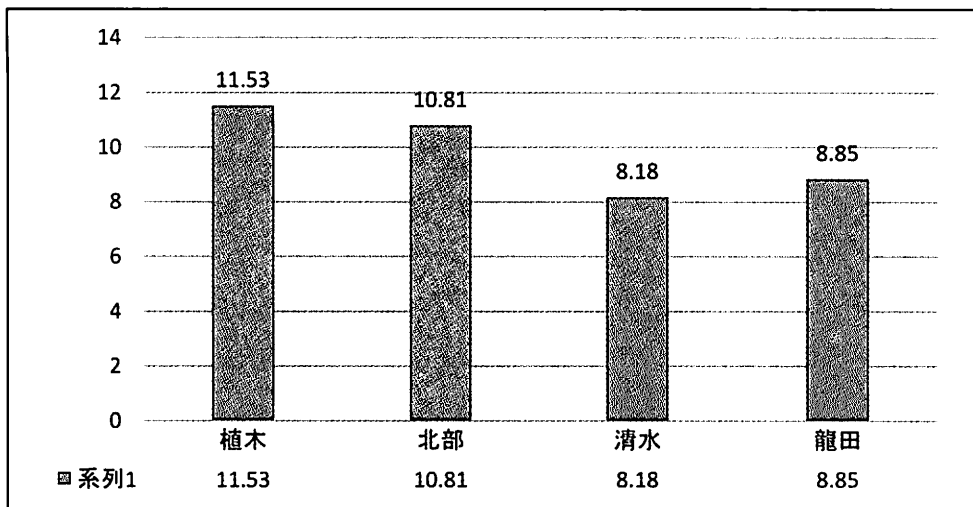


図-5 一人当たりの意見数 (意見数/参加者数)

2) マップに載せるデータ意見内訳

凡例：■食 ■史跡・文化 □自然・風景

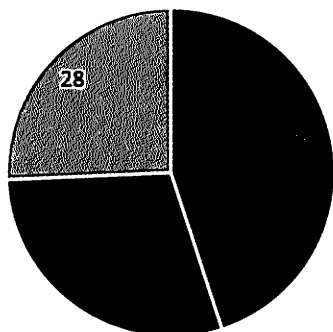


図-6 植木の意見の種類

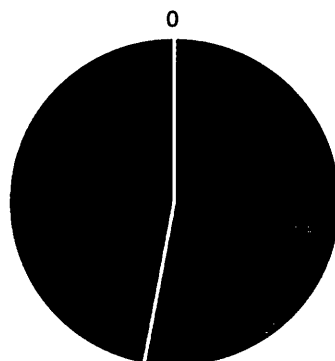


図-7 北部の意見の種類

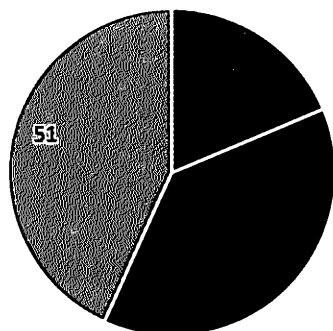


図-8 清水の意見の種類

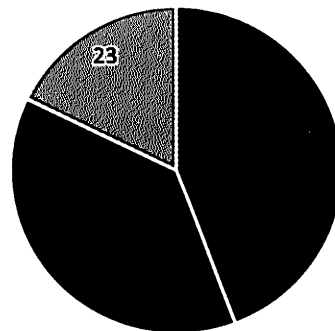


図-9 龍田の意見の種類

まず植木地域では食のデータが49個と最も多く、食に対する関心が高い地域といえる。

意見の中で34個は店舗に関しての意見であり、15個が植木の物産に対しての意見であった。北部地域は食のデータと史跡・文化・自然・風景のデータがそれぞれ36個と32個と同じ位あがっている。食は店舗に関しての意見が30個、物産に関しての意見は2個であった。

清水地域は、食が22個と最も少なく、史跡文化が45個、自然風景が51個と、歴史や自然などに対する関心が高い地域といえる。食の意見の中で物産に対してが9個と他の地域に比べると割合が大きい。龍田地域は、食と史跡・文化がそれぞれ57個と49個と多かった。食の意見では物産に関しては1個しか意見はなく、残りは店舗の情報であった。

## (2) 振り返りシートの分析

### 1) 北区について新しく発見したこと

北区について新しく発見したことは、大きく分けると、①「資源（目に見えるもの）」、②「資源（目に見えないもの）」、③「意識」の3つに分けられた。

植木では、①5個、②11個、③「意識」11個

北部では、①9個、②0個、③「意識」2個

清水では、①11個、②13個、③「意識」4個

龍田では、①11個、②3個、③「意識」13個

というものに違いがあることがわかった。全体の合計で見ると

①「資源（目に見えるもの）」36個、②「資源（目に見えないもの）」17個、③「意識」30個となり、「資源（目に見えるもの）」が新しく発見できたものとしては一番多いことがわかった。

### 2) マップ（幸せ絵巻）をどのように使いたいか

できあがったマップをどのように使いたいか、という項目も大きく分けると、①「地域外に向けて」、②「地域内に向けて」、③「自分で」、の3つに分けられた。

植木では、①1個、②7個、③「自分で」7個、

北部では、①5個、②2個、③「自分で」4個、

清水では、①3個、②14個、③「自分で」9個、

龍田では、①3個、②9個、③「自分で」10個、

また全体の合計では、①「地域外に向けて」12個、②「地域内に向けて」32個、③「自分で」30個、となり、マップはどちらかという外にむけて広報するのではなく、地域内で利用していきたいという意見が多いことがわかった。

## 4. まち歩きの可能性

本年度は、「まち歩き」事業を通じて、同じ熊本市の南区と北区に関わることができた。南区は3年目、北区は初年度と状況が違うので、それぞれ学びがあった。今回は、北区での学びを「まち歩きの可能性」としてまとめた。

### ①区役所職員が部署を問わずに参加する

「まち歩きは、まちづくり」と言われるほど、「まち歩き」はまちづくりと親和性がある。誰にでもできる、まちづくりの基礎たる所以であろう。そのため、自治体職員であれば、部署を問わずに参加することができ、区民と直接話すよい機会となる。今回は、まち

づくりマップづくりを行うワークショップのファシリテーターを、北区役所職員の有志の方々に担って頂くことができ。その結果「きたくぶ」ができ、まちづくりマップ作成の中核を担うことができた。

### ②区役所職員が区民とともにつくる

「きたくぶ」のメンバーは、3回行ったファシリテーション研修の間に、プロトタイプをつくるなど、まちづくりマップをどのようにつくるのか、何をコンテンツとすればよいのか、を熱心に考えて下さった。その経験は、4地域で行われた「北区幸せ絵巻づくりWS」に活かした。北区民だからこそ知っている、名所や風景、美味しいものなどの地域資源を発掘することができ、地域住民と行政の協働が実現した。

### ③自分たちでつくる

まちづくりマップを最後にカタチにするのは、専門家かもしれないが、今回、「手帖タイプ」「るるぶタイプ」など、使い方を意識したまちづくりマップのワークショップが開かれていたので、ほぼ区民と区役所職員がつくったマップであると言ってよい。企画から、コンテンツ、まち歩きコース、そのためのワークショップ、全て、官民協働で実践した、自作のまちづくりマップである。

事業の途中で、「このマップづくりは、今年で終わらせてはいけない」、「マップが捨てられず、その人らしく使ってもらおう工夫が重要」、「まち歩きのコースはつくってからが大切」などの声が、自発的にあがってきたことは、フットパス・コースづくりなどを含め、「まち歩きの可能性」を示す、うれしい実証事例であった。

**謝辞：**本研究には、様々な方々にご協力頂きました。田上美智子区長をはじめ、熊本市北区役所の皆様、特に「きたくぶ」の皆さん、懇話会やワークショップに参加して下さいました北区民の皆様、そしてともに運営に携わった熊本大学工学部社会環境工学科地域風土計画研究室の学生諸君には、たいへんお世話になりました。記して感謝の意を表します。

### 【参考文献】

- 1) 参加するまちづくり ワークショップがわかる本、伊藤雅春・大久手計画工房、農山漁村文化協会、2003. 9.
- 2) 「まち歩き」をしかける コミュニティ・ツーリズムの手ほどき、茶谷幸治、学芸出版社、2012. 8.
- 3) Social Design 社会をちょっとよくするプロジェクトのつくりかた、並河進、木楽舎、2012. 12.
- 4) 新しい広場をつくる－市民芸術概論綱要、平田オリザ、岩波書店、2013. 10.
- 5) フットパスによるまちづくり 地域の小径を楽しみながら歩く、神谷由紀子編著、水曜社、2014. 5.
- 6) みんなが幸せになるための公務員の働き方、嶋田暁文、学芸出版社、2014. 8.

# STUDY ON THE MANAGEMENT AND ANALYSIS OF WORKSHOP FOR MAKING COMMUNITY MAP IN KITA-KU, KUMAMOTO CITY

Naoto TANAKA and Ryuichiro YASUNAGA

Kumamoto city consists from five divisions from 1st April in 2012. Authors are concerned with the facilitation of community development for making a Machi-aruki map in Minami-ku, Kumamoto city. Additionally, we are concerned with making community map in Kita-ku, Kumamoto city. The aim of our action for Kita-ku's community development in this year is the one picture by which happy persons, rich regional materials and rural landscape were drawn. Because a volunteer of the Kita-ku local government office called "Kita-ku-bu" team is formed, they could manage 4 workshops for making the community development map, "Kita-ku Shiawase Emaki". In this paper, we analyzed the data of our action research in workshops about community development in Kita-ku, for quoting to apply this knowledge into the community development based the cooperation between local collectivities and citizens. We described about our framework for facilitation of community development, the process of this community development and consensus building between local collectivities and inhabitants.